

## 平成22年度第4回福井県男女共同参画審議会開催結果

### 1 開催日時

平成23年3月24日（木） 13:30～15:30

### 2 開催場所

県庁6階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

7名（塚本委員、新道委員、高田会長、遠藤委員、吉川委員、増永委員、和多田委員）  
【欠席】石森委員、林委員、和田委員）

#### (2) 事務局

旭副知事、男女参画・県民活動課前山参事、男女参画・県民活動課員、男女共同参画推進会議幹事課員、生活学習館職員

### 4 主な意見

#### ○ 第2次福井県男女共同参画計画（仮称）の骨子案について

#### 〈強調する視点〉

- ・ 「3 身近な地域社会での男女共同参画」の「一人もう一役」はわかりにくく、イメージしにくい。これまで男性が地域社会の中でもいい役割をやっていて、女性が支えてきた状況がある。男性がいい役割だけして、その役割をもう一役持つという風にも読みかねない。支える役割を女性に任せるというのでなく、男女が一緒にやっていくということが伝わってこない。
- ・ 地域の問題については、町内会活動、ボランティア活動などは男性がよく行っているが、女性に「一人もう一役」と言われても、仕事も家事も子育ても介護もしている。その上でもう一役と言われても、という部分がある。
- ・ 固定的役割分担意識が改善されていないことが問題で、その根本は人権問題であると思う。「人権侵害です」と言った方が固定的役割分担意識を変えやすいのではないか。
- ・ 国連の女子差別撤廃委員会から国に法制度を含めて改善を求めているが、国会議員の考え方などもあり、なかなか進まない状況がある。  
どこか1つが変われば全て変わるものでなく、教育や啓発など時間をかけながら変えていかないと、全部を急に変えるのは難しい。息長く、知恵を絞って県や市町がやっていくことが必要。
- ・ 今、端境期で中間地点。戦後日本の制度設計は「男は仕事、女は家庭」でやってきた。それが機能しなくなって雇用流動化が起こり、非正規の人が増え、固定的役割分業では回らなくなってきた。  
それにつれて意識が変わるかというとな変わっていかないという現象が起こっており、それをどう変えるかが大きな問題。  
世の中が男性にとって全てハッピーかというとな、必ずしもそうでない。社会の経済的仕組みや雇用の仕組みが変わる中で、ワーク・ライフ・バランスの視点で男性も家事分担をし、仕事と家

事と地域活動や社会活動（NPO やボランティアなど）の3部門にどう時間を分配するかというところで、主体的に選んでいけるようにすべき。

なかなか意識は変わらないが、息の長い活動をしなないといけない。

変わっていかざるを得ないし、長い目で見たら必然的に変わっていくと思うが、その過程で少しでもいい方向に進めていけるかということに差しかかっている。

- ・ 公の機関で古い考え方を持った人を教育すると、進み方が変わるのではないか。計画の1項目だけで変わるの難しいので、地域での取り組み等を継続していくと市や町にも動きが出て、流れを作り出すのではないか。
- ・ 地域で年4回くらい集まるので、女性から男性に意見を出してもらおうようにすることが大切。
- ・ オムツかえや着替えなど、男性だけ、女性だけになれる空間を設けたり、女性や子供が安全にトイレに行って帰って来られるとか、防災計画など県のほかの計画が男女共同参画の視点に立っているのかも大切。

#### 〈施策の基本的方向〉

- ・ 概ね全体的にしっかりまとめられている。  
仕事と生活の調和について、ワーク・ライフ・バランスという言葉も、仕事と生活の調和という言葉も、何が調和なのか理解されていない。  
仕事とプライベートが50対50であることがワーク・ライフ・バランスであると考えている人がほとんど。
- ・ 先進国になった日本は、女性に対する考えが変わらなければならないことを理解してもらうことが必要。
- ・ 「女性力」という表現は、最近よく使われる「女子力」とは違う意味であることは明らかだが、誤解のない表現にした方が適切ではないか。
- ・ 女性には、高い能力を持った人がたくさんいる。将来の会社のあり方、仕事の内容について、非常に細かいところまで考えていて、経済等についてもよく理解している。
- ・ 「女性力」について、タイトルを見ただけでわかる「思い切ってリーダーになっていいんだ、能力を發揮してください」ということが伝わる表現がないか。「女性力」というとちょっと広いので、わかりやすくした方がよい。
- ・ 男性の生活スタイルの見直しについて、女性が虐げられ、女性の力が發揮できないから男が考え方を変えるべきということは男性も意識しないといけないが、男性は困ると思うのではないか。
- ・ 男性の生活スタイルの見直しは、子どもの発達を両親で見られるようにしないとダメとか、家庭の経済力を1人で担わないようにするとか、介護は女性だけでは解決できないとかいろいろ視点がある。
- ・ 男性の生活スタイルを変えるのもいいが、女性も仕事や経済力を分担しないとダメ。
- ・ 生産年齢人口が減少していくが、働いていない女性で潜在的就業希望者がたくさんいるので、

その人達に働いてもらいたい、ということでもある。

- 北欧では女性が働きやすくなっており、女性に対する理解が進んでいる。日本の男性は大きく考え方を変えなければいけない。
- 女性にとって働きやすいということは、家庭も自分の生活のことも、男性にとっても生活しやすい。そういう社会をどう作るか、その上で男性も女性もいろんなところで活躍してもらえるかということ。
- 世代によって変わってきているので、変わる可能性がある。
- 世代間で考え方がだいぶ違う。今の子育て世代がみんな知っていると思うことが、上の世代は何のことだかわからない。
- 一般の人に先進国を見てもらうことが必要ではないか。先進国を参考に、日本に取り入れることができるか検討していくと道が開けるのではないか。  
意識の高くない人が先進国に行き意識が変わり、地域で話をするようになると効果が出てくる。

#### 〈目指すべき社会〉

- 目指すべき社会については、夢だけでなく危機感も与えた方がよい。「大変だ、あなたが困る」と言うと人は関心を持つ。それを柔らかく、皆がおっと思ふ言葉にすると読みやすくなる。

#### 〈その他〉

- 固い言葉より、柔らかく、こうしないと女性が助からないくらいのことを書くともみんな考える。わかりやすく、柔らかい言葉で、インパクトのあるものを考えてほしい。
- 社会情勢の変化について、少子化、経済の低迷はものすごく大きい。国が財政破綻になりかねない状況で、女性がどうあるべきかを考えると、本当に女性が能力発揮して働いていかないといけない。  
日本の女性は能力もあるし、経済を伸ばして行くのにもものすごい力になる。
- 女性をもっと前に出てもらわないと困るということを強調するとよい。
- 国民が行政におまかせになって、自分が主権者としてどうかかわるかという教育がなかったということがある。主権者としてかかわるにはどうしたらよいかが大変。